

# にかほ市学校環境適正化検討委員会

## 検 討 資 料

令和4年10月

にかほ市教育委員会

## 1 適正化を図る目的

○人口減少等の要因により市内の児童・生徒数が減少傾向にあるため、将来に渡ってよりよい教育環境を整備することで、充実した学校教育に資するため、学校の適正規模・適正配置を図り、将来を担う子どもたちの教育を充実させることを目的とする。

## 2 小・中学校の現在の規模（令和4年5月1日現在）

### 【小学校】

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計	
	組	児	組	児	組	児	組	児	組	児	組	児	組	児
平沢	2	53	2	45	2	47	1	37	2	56	2	63	11	301
院内	1	15	1	14	1	21	1	22	1	20	1	20	6	112
金浦	1	22	1	23	1	24	1	24	1	27	1	24	6	144
象潟	2	51	2	65	2	47	3	75	2	62	2	70	13	370
計	6	141	6	147	6	139	6	158	6	165	6	177	36	927

### 【中学校】

	1年		2年		3年		計	
	組	児	組	児	組	児	組	児
仁賀保	2	67	2	67	3	82	7	216
金浦	1	21	1	29	1	24	3	74
象潟	2	63	2	62	3	80	7	205
計	5	151	5	158	7	186	17	495

### 3 小・中学校学級数の標準

○児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいとされています。このことを踏まえ国が示している小中学校の標準規模は次のとおりとなっています。

1校あたりの標準規模 12～18学級（学校教育法施行規則第41・79条）

小学校 1学年2～3学級

中学校 1学年4～6学級

※ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りではない。

#### 【望ましい学級数の考え方】

○小中学校における望ましい学級数を考えた場合、小学校では、第一に複式学級を解消するために少なくとも1学年1学級以上（6学級以上）であることが必要となります。第二に、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた編成をしたり、同学年に複数教員を配置するためには1学年2学級以上（12学級以上）あることが望ましいとされています。

○同様に中学校でも、全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能とするなど、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも1学年2学級以上（6学級以上）が必要となります。また、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも9学級以上を確保（＝9名の教員配置）することが望ましいとされています。

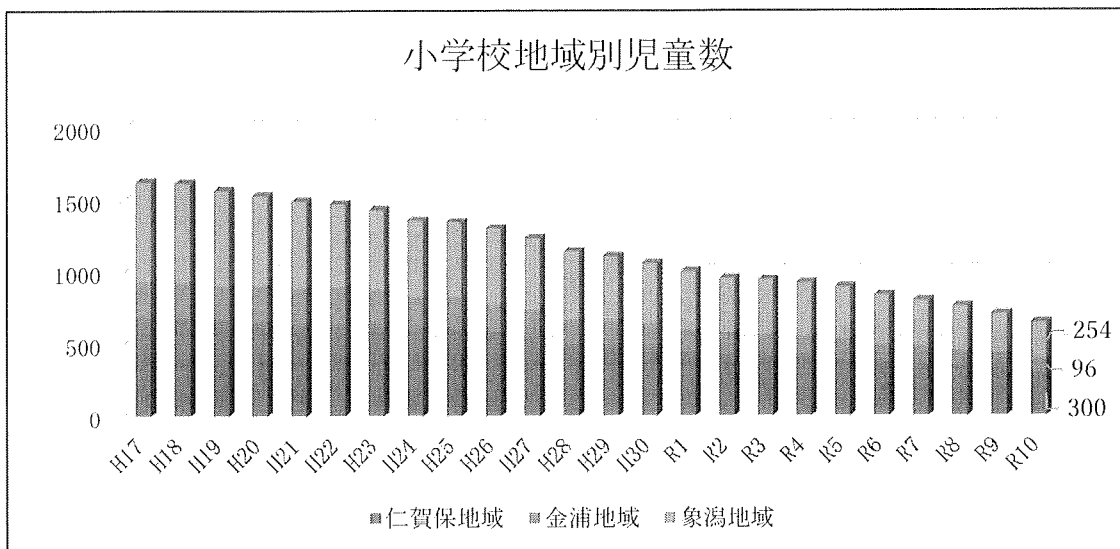
#### 【にかほ市の状況】

○にかほ市の状況は、小学校4校のうち院内小・金浦小は1学年1学級であり、全学年で2学級以上あるのは、象潟小学校のみとなっています。

○中学校では3校とも標準規模ではありませんが、仁賀保中・象潟中は1学年2学級以上となっていて、金浦中は全学年で1学級となっています。

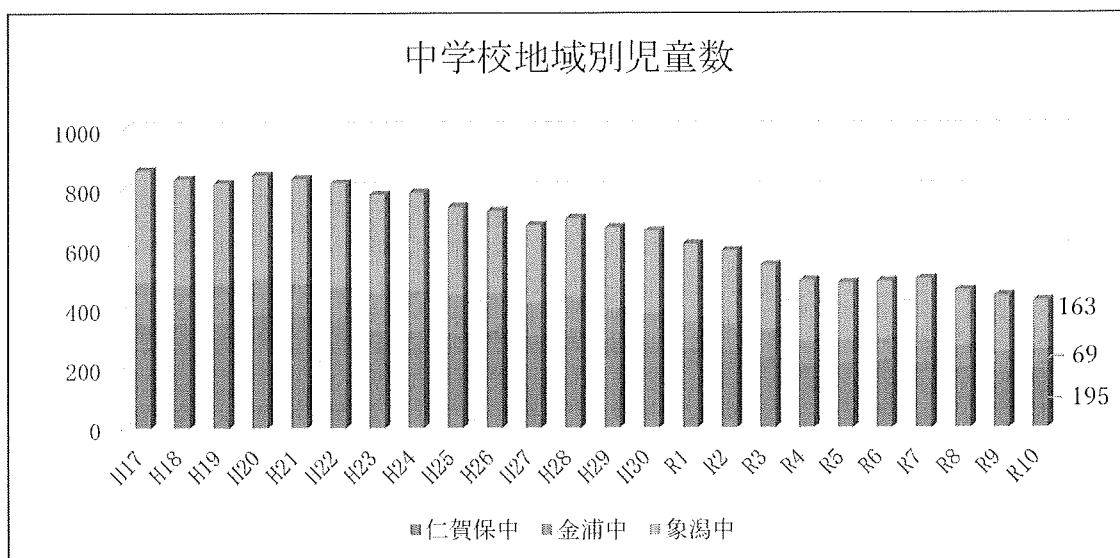
#### 4 小学校児童数の推移：市全域

○平成 17 年にかほ市発足時からの市内小学校児童数の推移は以下のとおりとなっていて、令和 5 年度からの数値は住民基本台帳をもとに推計した見込み数となっています。市内全体で 1,500 人を超えていた児童数は、令和元年に 1,000 人を割り込み令和 10 年には 650 人程度となる見込みです。



#### 5 中学校生徒数の推移：市全域

○平成 17 年にかほ市発足時からの市内中学校生徒数の推移は以下のとおりとなっていて、令和 5 年度からの数値は住民基本台帳をもとに推計した見込み数となっています。市内全体で 800 人を超えていた生徒数は、令和元年に 600 人程度にまで落ち込み、令和 10 年には 400 人程度となる見込みです。



## 6 これまでの適正化実施状況

○にかほ市ではこれまで小学校の統合を3回、中学校の統合を1回行っています。児童数・生徒数の減少に伴う複式学級解消のためのものですが、いずれも合併前の旧町をベースとして行われています。

統合年	統合校	児童数	学級数	統合後の学校	児童数	R4 児童数
平成 21年度	院内小学校	160	6	院内小学校	平成22 173	112
	釜ヶ台小学校	12	3			
平成 26年度	院内小学校	134	6	院内小学校	平成27 183	
	小出小学校	57	6			
平成 29年度	象潟小学校	320	12	象潟小学校	平成30 418	370
	上浜小学校	64	5			
	上郷小学校	61	5			

統合年	統合校	生徒数	学級数	統合後の学校	生徒数	R4 生徒数
平成 21年度	仁賀保中学校	368	10	仁賀保中学校	平成22 358	216
	釜ヶ台中学校	6	2			

## 7 現在の小学校区における児童数の実績及び将来推計

○これまで小学校の統合等により、一時的な児童数の増加はありましたが、それ以降も減少が続いており、今後もその傾向は変わらないと見込まれます。それにより現在全学年で1学級の院内小・金浦小は複式学級となる可能性が高い状況であり対応策の検討が必要となっています。

小学校	H30 (実数)		R4 (実数)		R10 (推計)		R12 (推計)		R17 (推計)	
	2018		2022		2028		2030		2035	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
平沢小	327	11	301	11	236	9	217	8	176	6
院内小	152	6	112	6	64	6	59	5	47	4
金浦小	164	6	144	6	96	6	88	5	71	4
象潟小	418	13	370	12	254	10	234	9	189	7
計	1,061	36	927	35	650	31	598	27	483	21

## 8 現在の中学校区における生徒数の実績及び将来推計

○市内中学校の統合は、平成 21 年に釜ヶ台中学校が仁賀保中学校に統合されています。中学校の生徒数も一時的な増加はありましたが、減少傾向が続いており、今後もその傾向は変わらないと見込まれます。こちらも現在全学年で 1 学級の学校は複式学級となる可能性もあり、対応策を検討しておくことが必要となっています。

小学校	H30 (実数) 2018		R4 (実数) 2022		R10 (推計) 2028		R12 (推計) 2030		R17 (推計) 2035	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
仁賀保中	284	9	216	6	195	6	182	5	146	4
金浦中	103	3	74	3	69	3	64	3	51	3
象潟中	274	9	205	6	163	6	152	5	122	4
計	661	21	495	15	427	15	398	13	319	11

## 9 小規模校の対策例

### ○通学区域の変更や柔軟な運用

- ・通学距離や通学経路の安全性を配慮し、学校区域の境界を変更すること
- ・特定の地域に存在する児童生徒が、指定校以外の隣接する学校への就学を認めること

### ○学区外からの通学者を増やす方法

- ・特色ある教育を行う小規模学校の活性化を図り、市内全域からの就学を認めること

### ○小中一貫校の新設

- ・小学校と中学校を統合し、9年間の教育を行う学校のこと

### ○学校の統廃合

- ・二つ以上の学校を一つにまとめて新たな学校とすること

### ○複式学級

- ・人数が減少しても学校を存続させることを前提として、2つ以上の学年をまとめて一つの学級とする

## 10 小規模校のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学 習 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童・生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> <li>●学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。</li> <li>●1学年1学級の場合、共に努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい</li> <li>●運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。</li> <li>●中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。</li> <li>●児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ活動や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。</li> <li>●部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。</li> </ul>
生 活 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。</li> <li>●異学年間の縦の交流が生まれやすい。</li> <li>●児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</li> <li>●集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。</li> <li>●切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。</li> <li>●組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。</li> </ul>
学校運営面 財 政 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</li> <li>●学校が一体となって活動しやすい。</li> <li>●施設・設備の利用時間等の調査が行いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。</li> <li>●学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。</li> <li>●一人に複数の校務分掌が集中しやすい。</li> <li>●教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。</li> <li>●子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。</li> </ul>
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者や地域社会との連携が図りやすい。</li> <li>●災害発生等による緊急避難時に混雑が生じにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>

## 1.1 大規模校のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学 習 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。</li> <li>●運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。</li> <li>●中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。</li> <li>●児童・生徒数、教職員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりやすい。</li> <li>●様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。</li> <li>●学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。</li> </ul>
生 活 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。</li> <li>●切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性たくましさ等を育みやすい。</li> <li>●学校全体での組織的な指導体制が組みやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。</li> <li>●全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。</li> </ul>
学校運営面 財 政 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員数がある程度多いため、経験、教科、特製などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。</li> <li>●学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨などが行いやすい。</li> <li>●校務分掌を組織的に行いやすい。</li> <li>●出張、研修等に参加しやすい。</li> <li>●子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員相互の連絡調整が図りづらい。</li> <li>●特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。</li> </ul>
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。</li> <li>●災害発生等による緊急避難時に、混雑が生じやすい。</li> </ul>



## 1 2 市内小中学校校舎等施設の概況

### 【小学校】

	現校舎完成	普通 教室	特別 教室	校地 面積	グラウンド	校舎	体育館
平沢小学校	S63	13 室	15 室	37,100m <sup>2</sup>	18,753 m <sup>2</sup>	7,008 m <sup>2</sup>	1,383 m <sup>2</sup>
院内小学校	S40 H25 耐震工事	8 室	7 室	18,838m <sup>2</sup>	10,703 m <sup>2</sup>	2,381 m <sup>2</sup>	563 m <sup>2</sup>
金浦小学校	H15	9 室	12 室	47,987m <sup>2</sup>	16,650 m <sup>2</sup>	4,373 m <sup>2</sup>	1,169 m <sup>2</sup>
象潟小学校	S52 H21 耐震工事	15 室	21 室	14,616m <sup>2</sup>	9,547 m <sup>2</sup>	6,262 m <sup>2</sup>	990 m <sup>2</sup>

小学校校舎の建築年度は、金浦小学校が最も新しく平成15年竣工で、築19年経過しています。平沢小学校は、昭和63年竣工で築34年経過しています。院内小学校と象潟小学校に関しては、竣工は古いですが、それぞれ耐震工事や統合に伴う改修工事を行っています。

### 【中学校】

	現校舎完成	普通 教室	特別 教室	建物 敷地	グラウンド	校舎	体育館
仁賀保中学校	H21	10 室	21 室	71,809m <sup>2</sup>	31,505 m <sup>2</sup>	7,711 m <sup>2</sup>	2,133 m <sup>2</sup>
金浦中学校	S54 H13 耐震工事	5 室	14 室	36,024m <sup>2</sup>	18,300 m <sup>2</sup>	2,867 m <sup>2</sup>	1,132 m <sup>2</sup>
象潟中学校	H20	9 室	23 室	46,778m <sup>2</sup>	12,966 m <sup>2</sup>	7,279 m <sup>2</sup>	2,331 m <sup>2</sup>

中学校校舎の建築年度は、象潟中学校が平成20年竣工、仁賀保中学校が平成21年竣工で築13年～14年経過しています。金浦中学校は昭和54年竣工で築43年ですが、平成13年度に耐震工事等大規模改修工事を行っています。